Laser Compass

N先生への返事

岡田 佳子[†]

Reply to Prof. N

Yoshiko OKADA-SHUDO[†]

2002年冬，「大学と科学」公開シンポジウム後，神戸のルミナリエを歩いていたとき，今は亡きN先生に突然質問されました．「女性って得だと思わない？」政府の審議会委員に女性を増やすために推薦した方が，何時の間にやらご自分より上位組織の委員になっていて，びっくりされたとのこと．「女性科学者は希少だから得だよね．」「……」ガラスの天井下にいた私は答えに窮してしまいました．

それから9年，2011年電通大で行われたレーザー学会学術講演会の実行委員を務めさせていただきました．初日に行われた懇親会会場には女性数名しか見あたりません．理事の先生と，レーザー学会の女性会員が少ない理由は何だろうか，どうしたら増やせるか，という話題になりました．さて，レーザー学会女性会員数(比率)をご存じでしょうか？総会員数1,296名中27名(2.1%)，理事20名中0，監事2名中0，評議員55名中1名です(6月末現在)．他学会と比べてみましょう．応用物理学会は，総会員数24,039名中1,183名(4.9%)，理事25名中1名，評議員117名中5名(7月末現在)，日本分光学会は，総会員数853名中52名(6.1%)，理事12名中0，監事3名中1名，評議員120名中3名(8月末現在)です．それぞれ女性副会長，会長が選出されています．

応用物理学会分科会に日本光学会があります．1990年当初，会員約2000名のうち女性会員は十数名であったにもかかわらず，幹事会には若手女性が抜擢され，私も1992年から常任幹事庶務を担当しました．当時の幹事会は，女性会員だけでなく若手や学生会員が大変少ないことに危機感を感じて対策を検討しました．そこで1993年に立ち上がったのが，代表，実行委員が全員女性というユニークな研究会「コンテンポラリーオプティクス研究グループ」です[1)]．その活動は，最先端技術を理解するための基礎に重点をおいた研究会を通して，年長の男性が中心になっている研究現場に新風を吹き込むとともに，女性会員数を一気に40名以上に増加させました．全員女性というと，リーダー役を女性が務めることによって女性のリーダーシップを育てるという女子校的発想，と思われるかもしれませんが，それでは社会の実情に合いません，あくまでも通常の研究現場における若手，女性研究者の活躍の機会を広げることが設立の趣旨でした．この研究グループ発足メンバーは，2001年7月応用物理学会「男女共同参画委員会」発足にあたり中心的役割を果たしました．8年間の分科会活動実績が評価されたのです．

さて，2006年から文部科学省が理系の女子学生を増やすための施策を行っています．公の機関では研究者の採用にあたって，業績が同程度の場合は女性を選ぶと明記しているところも出始めました．さらに若手研究者向けファンドが増え，応募条件に年齢制限までついている今は，過去に例を見ないほど若手女性研究者が優遇されている時代なのです．キャリアをめざす女性研究者には最大で最後のチャンスかもしれません．追い風であることは間違いありませんが，ここで採用された人が駄目だった場合，ああやっぱり，と一時のブームで終わってしまう可能性もあります．人数が少ないだけに，常に次世代に対する責任が伴い，プレッシャーも大きいのです．

N先生，このたびレーザー学会評議員を拝命致しました．女性初だそうです．「女性は得だなあ，頑張りなさい．」というお声が聞こえるようです．何を期待されているのかしっかり認識して精一杯務めます．多くの男性会員は先生と同様に思われるでしょう．確かにfaculty memberとなり，人生の微分係数は急激に大きくなりました．けれど突然無限大っていうのには戸惑います．

1) 日経産業新聞1994年1月19日．

[†]電気通信大学大学院 情報理工学研究科 先進理工学専攻（〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1）
[†]*The University of Electro-Communications, Graduate School of Informatics and Engineering, Department of Engineering Science, 1-5-1 Chofugaoka, Chofu, Tokyo 182-8585*